経営革新に挑む

◁ 8 ▷

夢農人（ゆめのうと）

農家の自立、地位向上へ

地元農産物の魅力や食の大切さを発信

鋤柄雄一さんは豊田市と田原市の農場で豚2万頭を飼育し「三州豚」としてブランド化を進めている。三州豚は食品メーカーが規格外として廃棄したパンなど100％植物性の飼料で育てている。動物性飼料を配合した一般的な飼料で育った豚に比べ霜降りが多く、甘みが強いという特徴がある。味や品質を評価してくれるホテルや高級レストランを中心に販路を拡大している。

鋤柄さんの実家は、江戸時代後期から続く稲作農家。父の代から養豚業に事業を拡大した。

鋤柄さんは大学を卒業後、薬品メーカーに就職。その後米国に留学した。地平線まで広がる広大な養豚場を見て、養豚業の規模の違いを実感。国土の狭い日本では、品質で勝負すべきだ、とブランド化に取り組むきっかけになった。

【プロフィル】
鋤柄雄一（すきがら・ゆういち）氏。46歳。豊田市出身。

父の後を継ぐことに迷いはなかったが、農業に対する「5K（きつい、きたない、かっこ悪い、結婚できない、稼げない）」のイメージに疑問を抱いていた。1996年に就農した後、この疑問は「農家の地位を向上させたい」という強いモチベーションに転化した。

10年、豊田の農業者3人で非営利の任意団体「夢農人とよた」を設立。農家の自立、地位向上をめざす活動を行うことが目的だ。アンテナショップの運営や催し物への共同出店、中学校への出張授業などを通じて、新鮮な地元の農畜産物の魅力や食の大切さを伝えている。趣旨に賛同する農業者が徐々に集まり、メンバーは31人に増えた。

14年10月には、株式会社夢農人（本社豊田市堤本町本地5）と法人化し、鋤柄さんが代表取締役に就任。15年3月には、豊田市桜町2の56にカフェとマルシェを併設した「ころも農園」を開設した。メンバーがつくった農畜産物や加工品を販売している。

カフェとマルシェ併設の「ころも農園」を開設

「豊田市は日本を代表するモノづくりの街ですが、実は多くの農産物に恵まれています。地元のおいしい農産物をカフェで堪能していただきたいと思います。夢農人の事業を通じて食の大切さや農業に対するイメージを変えていきたい」

鋤柄さんはこう意気込みをみせる。

【夢農人（ゆめのうと）】14年10月の設立。資本金は600万円。15年9月期の売上高は1500万円、社員数は4人。